

【公報種別】特許法第 17 条の 2 の規定による補正の掲載

【部門区分】第 1 部門第 1 区分

【発行日】平成26年10月16日(2014.10.16)

【公開番号】特開2014-158449(P2014-158449A)

【公開日】平成26年9月4日(2014.9.4)

【年通号数】公開・登録公報2014-047

【出願番号】特願2013-31141(P2013-31141)

【国際特許分類】

A 0 1 C 11/02 (2006.01)

【F I】

A 0 1 C 11/02 3 0 3 C

【手続補正書】

【提出日】平成26年8月27日(2014.8.27)

【手続補正 1】

【補正対象書類名】特許請求の範囲

【補正対象項目名】全文

【補正方法】変更

【補正の内容】

【特許請求の範囲】

【請求項 1】

受けた移植物を圃場に植付ける移植具(20)を機体側面視でループ状の下端軌跡(A)に沿って昇降可能に備える移植機において、

上記移植具(20)の付着泥土を掻取るための弾性部材による左右のスクレーパ板(122, 122)をそれぞれの外側部を支持部(122a, 122a)として上記移植具(20)の左右側部に配置するとともに、それぞれの内側部に互いに対向して下端軌跡(A)の下降軌跡及び上昇軌跡の双方で接する接触部(122c, 122c)を形成したことを特徴とする移植機。

【請求項 2】

前記左右の支持部(122a, 122a)を個別に支持する左右のスクレーパアーム(123, 123)を設け、左右のスクレーパアーム(123, 123)を可動支持した上で内側方向に付勢するスプリング(126)を設けたことを特徴とする請求項1に記載の移植機。

【請求項 3】

前記左右のスクレーパアーム(123, 123)を前後方向に長く形成し、その一端を縦支軸(124)によって軸支し、前記左右のスクレーパ板(122, 122)の各支持部(122a, 122a)から接触部(122c, 122c)まで下降する傾斜部(122b, 122b)をそれぞれ形成し、各傾斜部(122b, 122b)を上記縦支軸(124)からの距離に応じて急傾斜に形成してなることを特徴とする請求項2に記載の移植機。

【請求項 4】

前記縦支軸(124)を左右方向に位置調節可能に支持する取付フレーム(125)を、縦支軸(124)よりも前側又は後側に設け、スクレーパアーム(123, 123)が取付フレーム(125)の前後にわたって延びる構成としたことを特徴とする請求項3記載の移植機。

【請求項 5】

前記移植具(20)の両側部に覆土具(37)を支持する覆土具フレーム(39)を前後方向に向けて配置し、その一端を左右方向に延びる回動支点軸(38)に沿って位置調節可能に軸支し、この覆土具フレーム(39)の回動上限より高位置に前記スクレーパア

ーム（１２３，１２３）を配置したことを特徴とする請求項２～請求項４のいずれかに記載の移植機。

【請求項６】

前記縦支軸（１２４）を前記左右のスクレーパーム（１２３，１２３）の前端に配置したことを特徴とする請求項３又は請求項４に記載の移植機。

【請求項７】

前記ループ状の下端軌跡（Ａ）の上端より上方に前記スクレーパ板（１２２，１２２）の上端を配置したことを特徴とする請求項１～請求項６のいずれかに記載の移植機。

【手続補正２】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】０００６

【補正方法】変更

【補正の内容】

【０００６】

請求項１に係る発明は、受けた移植物を圃場に植付ける移植具（２０）を機体側面視でループ状の下端軌跡（Ａ）に沿って昇降可能に備える移植機において、上記移植具（２０）の付着泥土を掻取るための弾性部材による左右のスクレーパ板（１２２，１２２）をそれぞれの外側部を支持部（１２２ａ，１２２ａ）として上記移植具（２０）の左右側部に配置するとともに、それぞれの内側部に互いに対向して下端軌跡（Ａ）の下降軌跡及び上昇軌跡の双方で接する接触部（１２２ｃ，１２２ｃ）を形成したことを特徴とする。

【手続補正３】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】０００７

【補正方法】変更

【補正の内容】

【０００７】

請求項２に係る発明は、請求項１に係る発明において、

前記左右の支持部（１２２ａ，１２２ａ）を個別に支持する左右のスクレーパーム（１２３，１２３）を設け、左右のスクレーパーム（１２３，１２３）を可動支持した上で内側方向に付勢するスプリング（１２６）を設けたことを特徴とする。

【手続補正４】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】００１１

【補正方法】変更

【補正の内容】

【００１１】

請求項６に係る発明は、請求項３又は請求項４に係る発明において、前記縦支軸（１２４）を前記左右のスクレーパーム（１２３，１２３）の前端に配置したことを特徴とする。

【手続補正５】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】００１８

【補正方法】変更

【補正の内容】

【００１８】

請求項６に係る発明によれば、請求項３又は請求項４に係る発明の効果に加え、左右のスクレーパーム（１２３，１２３）をその前端で支持することにより、移植具（２０）を含む支持部を前側に集中して植付けた移植物との干渉を招くことなく合理的に構成することができる。また、下端軌跡（Ａ）の上昇行程が縦支軸（１２４）から離れる側（後側）となるから、移植具（２０）の上動時の付着泥土の除去作用を向上することができる。